

令和5年度指定

スーパーサイエンスハイスクール

認定枠研究開発実施報告書

第3年次

令和8年3月

学校法人立命館 立命館守山高等学校

学校法人立命館 立命館守山高等学校	認定枠
認定第 I 期目	05-09

①令和7年度スーパーサイエンスハイスクール認定枠実施報告（要約）

<p>① 取組の目的</p>	<p>第Ⅲ期 SSH 指定最終年までの 17 年間に、中高一貫校である中高 6 年間、さらに連携先である立命館大学・大学院の 6 年間の加えた 12 年間の中高大院ストリームに加えて、博物館や企業などとの地域連携も加えた地域密着型の教育環境地盤を構築してきた。</p> <p>SSH 認定枠では、これまで培ってきた理系人材育成のノウハウと盤石な探究システムの土壌において、大学および地域連携をより強固なものにしつつ社会実装をテーマとして、連携先との共同開発と地域課題解決に向けた方針を立てていきたい。</p> <p>具体的には、新たなスタイルとして、立命館守山の特色を出しながら連携パートナーとして継続的な連携関係を構築しつつ、地域に内在する課題を長期継続しながら解決するスタイルを確立する。このような立命館守山（リツモリ）の活動が普及していくことで地域理解を得ながら、相互メリットを見据えた社会実装としてのリツモリ・教育ストリームとして新展開することを目標としていく。</p> <div data-bbox="303 985 1300 1556" data-label="Diagram"> <p>立命館守山高校理系課題研究の構造</p> <p>立命館大学 研究アドバイス ミニレクチャー 課題研究発表</p> <p>サイエンスAP 課題研究・社会実装</p> <p>共創探究 I テーマ決定・視野の拡張</p> <p>Thinking Design 科学的思考力・探究基礎</p> <p>立命館守山高校</p> <p>立命館守山中学 研究手法基礎</p> <p>中高連携</p> <p>探究の深化 探究活動の支援 興味付け 探究テーマ 進路決定</p> <p>校外研修企画 ◆恐竜博物館研修 ◆サイエンスキャンプ立山 ◆大学入学前研修等</p> <p>地域への還元 探究ストリーム ◆神港精機との連携 ◆水環境ワークショップ ◆空間共有システム ◆異分野・異世代セミナー</p> <p>地域・企業・大学等 連携事業</p> </div>
<p>② 取組の概要</p>	<p>第Ⅲ期 SSH までに培ってきた地域密着型の教育基盤を最大限に活かし、大学および地域と連携を図りながら探究活動を進める教育活動を充実させた。また、他分野にわたる校外研修企画を、認定枠校として持続可能なようにスリム化しつつ、内容の充実を図った。取組は、以下の 3 つに大別して報告する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中高大院連携を軸とした理系探究ストリームと新科目「共創探究」による探究の新機軸 2) 地域や社会に目を向ける調査・研究活動の展開 3) 地域・企業・大学研究室と連携した、地域共生社会及び社会貢献を軸とする探究活動

③ 令和7年度実施規模

学 科	第1学年		第2学年		第3学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
普通科（以下内訳）	335	9	351	9	336	9	1022	27	高校1年全クラスと、高校3年のGLsコースを主対象として実施。高校1年生は、共創探究科目「Thinking Design」を全員受講している。また、希望性の研修参加者を主対象とする。
AM コース	227	6	117	3	111	3	455	12	
AMs コース（理系）	0	0	122	3	78	2	200	5	
GL コース	76	2	43	1	78	2	197	5	
GLs コース（理系）	0	0	40	1	40	1	80	2	
FT コース	32	1	4		5		41		
FTs コース（理系）	0	0	25	1※1	24	1※1	49	3※1	

※1 第2・3学年 FT コースは、FTs、FT コースの混合クラスとなっている。

※2 略称表記

AM：アカデミアコース（立命館大学進学希望の普通科の名称） FT：フロンティアコース（難関大学進学を目指す普通科の名称）

GL：グローバルコース（立命館大学進学希望者のうち、正課外活動や国際的な取り組みを多く実施する普通科の名称）

GLs：グローバル理系コース（GL コースのうち理系のクラス）

第1学年全生徒、第2学年 AMs、GLs 生徒及び FT コース生徒、第3学年 AMs、GLs 生徒、Sci-Tech 部所属生徒を主対象とする。

第3学年理系の GLs コースでは、理系探究科目の「サイエンス API・II」、第2学年の FT コースでは「医療基礎セミナー」などそれぞれコースの目的に応じた理系教育を行う。また、希望制で実施する校外研修の取り組みには、理系生徒で定員に満たない場合は文系生徒の希望者も募り、科学技術に寄与できる人材の育成を図る。併設中学校の生徒についても6ヶ年を通じた人材育成の観点から、一部の活動を対象とする。

④ 取組の内容

（1）中高大院連携を軸とした理系探究ストリームと新科目「共創探究」による探究の新機軸

2020年度には、高校3年間の探究授業を取りまとめる教科として共創探究科を設置し、教科主任を配置した。共創探究科は文系・理系の探究授業全体を統括し、科目同士の系統性・関連性を図る役割を担う。以下1)～5)で、高校3年間の理系探究科目の概要について述べる。

1) 高校1年 全コース対象「Thinking Design」〈関係資料2〉

学び方・考え方の多様性を知り、仮説の学び方・考え方の多様性を知り、仮説の立て方や根拠をもって論理的に表現するなどの手法を身につける。授業は、探究に必要なスキルをテーマごとに分類し、オムニバス形式で実施する。形態は半学級とし、同時並行で2クラス4チームが活動する。3～4名の少人数グループで実習、ディスカッション、発表など、アクティブ要素を盛り込んだ形式とする。テーマは2021年度まで8つだったが、2022年度より開始する高校2、3年生の新科目の「共創探究I・II」を見据えて新たに「ファクトフルネス」、「ファシリテーショングラフィック」を加えて、計10テーマとした。これまでの高校1年生探究基礎科目「Thinking Design」においては、2年生の「共創探究I・F」との接続が課題として挙げられていた。そこで今年度の後半においては、実際に与えられた探究テーマに対して探究のサイクルを回し、体験的に探究を学ぶことを意識した。中高6年間の探究ストリームの確立に向け、授業内容を吟味し、授業として進化を続ける。

- | | |
|------------|-------------------|
| ① 類推 | ② 数学モデリング |
| ③ 論理的記述 | ④ 数理論理 |
| ⑤ 仮説と検証 | ⑥ 発想法 |
| ⑦ 科学的分析 | ⑧ 修正と検証 |
| ⑨ ファクトフルネス | ⑩ ファシリテーショングラフィック |

2) 高校 2、3 年 AM/GL コース「共創探究 I A・F／共創探究 II A・B」

「共創探究」は「自らの興味・関心に引き寄せた現代の社会課題を見つけ出し、それを解決するためのプロジェクトを考え、実践せよ」という課題に挑戦する探究活動であり、1年間ないしは2年間をかけて取り組む。2022年度まで文系・理系で分けて実践していた授業を、2023年度から文理融合のカリキュラムに改編することで、より生徒のプロジェクトが社会実装しやすい環境を整えた。例えば、地産のものを活用した食品を作って販売する際に、その成分からより栄養価の高い商品を開発する理系生徒と、販路を確立させ宣伝・広報の手法を考える文系生徒がチームを組む、というようにである。こうした社会実装には、地域連携・企業連携が必須となるが、すでに協力関係にある守山市役所、守山商工会議所をはじめ、地元の地方銀行や中小企業と生徒が直に連絡が取れるような体制を構築している。

3) Science English

科学的思考を養うのと同時に、英語での表現力・発表スキルを養うために、本校独自に設置した科目である。仮説を立て、実験を行い、レポートに結果および考察をまとめる一連の活動する際、すべて英語を用いて行う。

4) 高校 3 年 GLs「サイエンス AP I・II」〈関係資料 2、5〉

「サイエンス AP」は、高大院連携講座を中心に展開する「サイエンス AP I」と、大学研究室と連携を図りつつ課題研究を進める「サイエンス AP II」に分かれる。それぞれの科目は双方向的な関係にあり、例えば「サイエンス AP I」における大学研究室との連携を通じて、生徒自身で大学教員とアポイントメントを取り「サイエンス AP II」の課題研究を進めることができる。なお、GLs クラス 3 年生の生徒は毎週 1 回、BKC にある本校施設に登校し、「サイエンス AP I」はその日に実施する。それぞれの科目における主な取組と概要は以下の通りである。

科目	主要な取組	概要
サイエンス AP I (主に BKC にある本校施設内で実施)	ミニレクチャー	BKC の理系 4 学部 (スポーツ健康科学部・生命科学部・薬学部・理工学部) による学部紹介や連携授業を行った。例えば、スポーツ健康科学部については研究施設訪問、薬学部については研究施設訪問と薬学部所属の本校卒業生との交流を行った。この取組を通じて、インターネットやパンフレットによる情報では分からない大学の研究内容や学びを、大学教員や学生から直接伝えてもらうことで、生徒が興味を持つ分野についてより理解を深めるとともに、興味の関連性を通じて大学での学び、高校での学びに対する動機づけを強めることをねらいとした。さらに、「サイエンス AP II」における課題研究のテーマ決定と、本企画をきっかけとした大学教員と生徒間の繋がりが生まれた。
	大学 0 年生プロジェクト	高校と大学のカリキュラムや学びの流れについて理解を深め、大学進学後の適応や学業成果につながるシームレスな移行を支援することをねらいとして、全 3～5 回の連続特別講座を、BKC 及び OIC の理系 4 学部 (スポーツ健康科学部・生命科学部・理工学部・情報理工学部) と連携して実施した。生徒自身が第一志望とする学部の講座を選択することで、自身の大学入学後の学びのイメージを具体化することができた。さらに、各学部で学んだことについて生徒同士が共有する「学びの共有会」を実施した。
サイエンス AP II (本校で実施する実験を中心とした活動)	ポスター形式の中間発表会	課題研究の質の向上には、研究途中における専門家からの意見は非常に有益なものとなる。そこで、1 年間のおよそ中間に当たる 10 月中旬に、立命館大学理系 5 学部 (情報理工学部・スポーツ健康科学部・生命科学部・薬学部・理工学部) の大学教員を審査員として招聘し、ポスター発表会を開催した。
	口頭発表形式の最終成果発表会	1 年間の課題研究の集大成として、最終成果口頭発表会を行った。審査員には理系 5 学部の大学教員を招聘しただけでなく、保護者の参加を可能とし、高校 2 年生も観覧した。

※BKC=立命館大学びわこ草津キャンパス OIC=立命館大学大阪いばらきキャンパス

5) 高校 3 年 GLs「Advanced Placement (大学単位 以下、AP)」

大学に入学する前に大学の授業を受講することによって、自分自身の希望する学びと進学希望学部の教学内容が合致しているのかを確認するとともに、大学の授業を経験することで「学び」に対するモチベーションを高めることを目的として、「大学開講科目履修 (AP 科目履修)」を実施し

ている。本制度では、附属校の高校3年生が大学の授業を履修することができ、修得した単位は、希望者が所定の手続きを行うことで、進学後に進学学部判断により大学の単位として認定される場合がある。 AP科目には人文・社会系から理工・生命系まで多様な授業が提供されているが、本報告では、高校3年GLs（理系コース）の生徒が履修している理工学部・生命科学部を中心とした理系科目に焦点を当てている。現在履修可能な科目は右表の通りである。

科目名	開講責任学部
数理の世界	理工学部
学びとキャリア	理工学部
情報の数理	理工学部
Cross-cultural Encounters 1	スポーツ健康科学部
Cross-cultural Encounters 2	生命科学部
Cross-cultural Seminar	理工学部
数学Ⅲ（線形代数）	理工学部
宇宙地球科学1	理工学部
数学Ⅳ（線形代数）	理工学部
生化学Ⅰ	生命科学部

（2）地域や社会に目を向ける調査・研究活動の展開〈関係資料3〉

第Ⅲ期指定期間においては、「生徒が外に出て体験と発見をする学び」を充実させるために、より多様な分野の校外研修を企画、立案した。認定卒1年目である昨年度より、各研修企画を持続可能な取組とするために研修内容を精査し、実施規模を再検討した。今年度は②のサイエンスアイランド伊豆大島研修を新たに実施し、以下の①～⑥の研修企画を実施した。

研修名	対象	概要
① サイエンスキャンプ立山研修	全学年（理系3年優先）	氷河地形と火山活動および高山植物等の高山生態系について、現地学芸員からレクチャーを受けながら、フィールドワークを行った。
② サイエンスアイランド伊豆大島研修	全学年（理系3年優先）	伊豆大島をフィールドとした「サイエンスアイランド伊豆大島」研修を実施し、三原山麓における植生遷移の調査、地層大切断面の観察、波浮港周辺での海洋生物調査などを行った。火山島特有の地形・地質・生態系を実地で観察し、植生調査の方法や地層形成の過程について学ぶとともに、火山と海がつくる自然環境を多角的に探究するフィールドサイエンス研修を行った。
③ 福井県立恐竜博物館研修	全学年（1年優先）	福井県立恐竜博物館に訪問し、化石研究の最先端にいる学芸員による特別レクチャーと博物館観覧及び化石発掘体験を行った。また、現地活動の時間確保のために、特別レクチャーを事前学習に位置付けて博物館より講師を招聘し、開催した。
④ 太地町立くじらの博物館研修	全学年（理系3年優先）	太地町立くじらの博物館訪問及び周辺地域のフィールドワークを通して、クジラやイルカの進化生態と、鯨漁に関わる伝統と文化について学ぶ取組を行った。
⑤ 建築技術探究	全学年（理系3年優先）	日本が誇る建築技術について、「伝統的な技術」と「近代建築技術」の両側面を、竹中工道具館と銘建工業㈱を訪問し、研修を行った。
⑥ 動物の食性と骨格の研修（大阪市立自然史博物館・天王寺動物園）	全学年（1年優先）	天王寺動物園では、獣医として勤務されている方から哺乳類における消化と吸収や足の作りとあるき方について学び、サバンナエリアを解説していただきながら見学した。大阪市立自然史博物館では、多数の骨格標本が組み立てられ、展示されている。これらの標本がどのようにして作られているのか、実際に骨格標本にする際に必要な骨洗いの作業を体験した。

（3）地域・企業・大学研究室と連携した、地域共生社会及び社会貢献を軸とする探究活動

1）企業連携

2022年度、学校から徒歩5分圏内にある地元企業・神港精機（株）と「サイエンス教育の振興に関する連携協定」を締結した。また、京都に本社を構え、滋賀に工場を持つ村田製作所（株）には、Sci-tech部の情報工学班への特別指導を行っていただいている。

その成果として、2025年度にはブラジルで行われたRoboCup 2025世界大会で第3位という大きな成果を収めた。さらに、村田製作所（株）とは、産学連携 × STEAM ×アントレプレナーシップ教育を推進するPBLを中心とした、小中高を通じた新たな教育プランを策定。本校をイノベティブな人材育成の拠点とするプロジェクトが進行している。

2）立命館大学ものづくり拠点の「GIC」と連携して構築した「空間共有システム」の活用

2022年度より立命館大学理工学部と連携し、ものづくり部屋の「空間共有システム」を本校技術室で稼働させた。これにより、大学教員とオンラインで繋がりながら、モノづくりの指導を受けることが可能となった。今年度も、理工学部よりご提供いただいた3Dプリンタやレーザー加工機などのデジタルファブリケーションを活用した探究活動が複数あったほか、これらを用いた生徒主体のワークショップも開催した。

3) 滋賀医大連携講座

FT コースでは、医療系大学を志望する生徒が多く所属している。将来の医療系人材の育成を目的の一つとして、滋賀医科大学との高大連携事業「医療基礎セミナー」を実施している。本校での講義および滋賀医科大学における講義・施設見学等を通して、大学における医学研究や医療教育の実際に触れる機会としている。

第1学年	・医学・医療の社会的役割および看護職についての講義（本校での実施）
第2学年	・医学研究および臨床医学についての講義（本校および滋賀医科大学での実施） ・施設見学（滋賀医科大学での実施）

4) 大学授業見学会の開催 〈関係資料4〉

本校生徒は、毎年 90%程度の生徒が立命館大学に内部進学する。そのため、進路指導のほとんどが、「どの学部を希望するか」となる。しかしながら、学部及び学科選びをするためのヒントとなる機会が少ないことが課題として挙げられていた。

そこで2024年度より、年度内で2回、立命館大学の授業を見学できる、授業見学会を実施している。「高校生向けにつくられた授業ではない実際の授業」を見学することで、自分が興味を持っている分野や学問の詳細の一端を理解し、進路選択の一助とし、さらには、高校で学んでいる内容と大学での学問のつながりを実際に確認することで、学習のモチベーションを高める機会とした。

○実施上の課題と今後の取組

(1) 中高大院連携を軸とした理系探究ストリームと新科目「共創探究」による探究の新機軸

- ① 「共創探究 I・F」により文理融合型の探究活動が可能となったが、当初想定していたような文系生徒と理系生徒が融合して探究活動を進めるといったことは多くは実現せず、「社会課題解決型」の探究活動を行う生徒が多数となった。基礎科学の探究や、生徒一人ひとりの興味・関心を活かした探究テーマが増加するような場づくりが課題となる。
- ② 高校1年生の探究基礎科目「Thinking Design」においては、2年次の「共創探究 I・F」との接続が課題として挙げられていた。そこで今年度は新たな取組として、年度後半に、与えられた探究テーマをもとに探究のサイクルを経験する機会を設けた。一方で、生徒一人ひとりの「好き」や興味・関心を十分に深掘りするまでには至らなかったという課題も見られた。今後は、探究サイクルの経験と、個々の興味・関心の深掘りとを両立できる取組へと発展させていきたい。

(2) 地域や社会に目を向ける調査・研究活動の展開

- ① 充実させた校外研修企画は、今後も本校独自の予算と生徒負担により企画を実施することができるよう、各企画の持続可能な実施スタイルを追求し続ける。
- ② 今年度より新たに「伊豆大島研修」も実施、また、立命館大学理工学部との高大連携の取り組みとして、能登半島地震復興支援研修も実施した。引き続き、分野を問わない、共創的な学びを生徒たちが実体験できる研修企画の充実を図る。

(3) 地域・企業・大学研究室と連携した、地域共生社会及び社会貢献を軸とする探究活動

- ① 2024年度より始動した村田製作所との連携では、中学生を対象にした新たな教育プログラムの開発に向けて、本校教員と株式会社 COLEYO が共同設計した「進化」に関する授業実践を行った。教育プログラムの完成に向けて、引き続き協働開発を進める。
- ② 立命館大学附属校である強みを活かした取り組みを充実させた。例えば高校1年生のキャリアアップ FW においては、生命科学部と理工学部の学びを体験できる機会を設けたほか、昨年度よりスタートした大学授業見学会と能登半島支援プロジェクトを、より充実させた内容で継続して実施することができた。

認定枠関係資料

- ＜関係資料1＞ 教育課程表
- ＜関係資料2＞ サイエンス AP 授業事後アンケート結果
- ＜関係資料3＞ 校外研修事後アンケート結果
- ＜関係資料4＞ 大学授業見学会報告書
- ＜関係資料5＞ 2025年度 サイエンス AP 生徒課題研究タイトル一覧

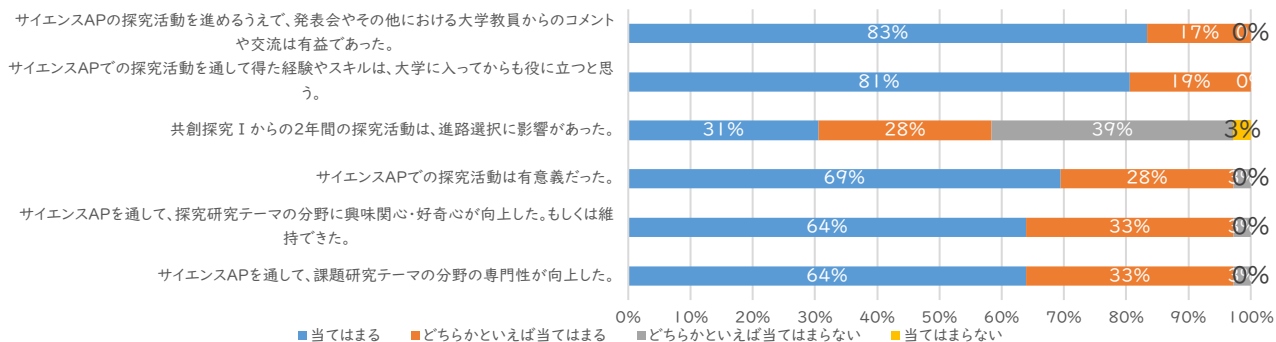
<関係資料1>

高等学校教育課程表

教科	科目	必修 修	単 位 数	1年			2年						3年						単位数計					
				AM	GL	FT	AM		GL		FT		AM		GL		FT		AM		GL		FT	
							理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系
国語	現代の国語	○	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
	言語文化	○	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
	現代国語					2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	
	古典探究		4						2								0	5	0	5	0	4		
	国語演習A									1					2		0	0	0	0	3	0		
	国語演習B														◆2	◆2					0~2	0~2		
小論文														◆2	◆2					0~2	0~2			
地歴	地理総合	○	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
	地理探究		3				○3		○3						■3	■3	0	0~3	0	0~3	0~3	0~3		
	歴史総合	○	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
	日本史探究		3				○3		○3		3						0	0~3	0	0~3		3		
	世界史探究		3				○3		○3		2						0	0~3	0	0~3		2		
	日本史演習																					0~4		
	世界史演習																					0~4		
地理・公民演習														1							1			
公民	公共	○	2				2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	2	2		
	政治・経済		2										2		2		0	2	0	2	0	0		
	公民演習														■3	■3	0	0	0	0	0~3	0~3		
数学	数学Ⅰ	○	3	3	3	5											3	3	3	3	5	5		
	数学Ⅱ		4				4	4	4	4	4	4					4	4	4	4	4	4		
	数学Ⅲ		3									4		4		4	4	0	4	0	4	0		
	数学A		2	2	2	3											2	2	2	2	3	3		
	数学B		2				2		2		2		3		3		2	3	2	3	2	2		
	数学C		2									2		2		3	3	2	0	2	0	3	3	
	数学演習																					0	3	
キャッチアップ					(1)												0	0	0	0				
理科	化学基礎	●	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
	化学		4				3		3		3	2		2	3		5	0	5	0	6	0		
	生物基礎	●	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
	生物		4							○3		○4		○4	○3		0~4	0	0~4	0	0~6	0		
	物理基礎	●	2				2	2	2	2	2						2	2	2	2	2	2		
	物理		4							○3		○4		○4	○3		0~4	0	0~4	0	0~6	0		
理科基礎演習														4		0	0	0	0	0	4			
体育	体育	○	7~8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
	保健	○	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2		
芸術	音楽Ⅰ	●	2				●2	●2	●2	●2	2	2												
	美術Ⅰ	●	2				●2	●2	●2	●2							2	2	2	2	2	2		
	書道Ⅰ	●	2				●2	●2	●2	●2														
外国語	英語コミュニケーションⅠ	○	3	5	5	5											5	5	5	5	5	5		
	英語コミュニケーションⅡ		4				4	4	4	4	4	4					4	4	4	4	4	4		
	英語コミュニケーションⅢ		4									4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4		
	ExpressionⅠ						2	2			2	2					2	2	0	0	2	2		
	ExpressionⅡ										2	2					2	2	0	0	0	0		
	Critical ThinkingⅠ								2	2							0	0	2	2	0	0		
	Critical ThinkingⅡ												2				0	0	0	2	0	0		
	Academic Writing												2				0	0	0	2	0	0		
	英語演習													2	2		0	0	0	0	2	2		
	キャッチアップ					(1)																		
家庭	○	2	2	2	2											2	2	2	2	2	2			
情報	○	2				2	2	2	2	2	2					2	2	2	2	2	2			
学設校定	共創探究Ⅰ						2	2	2	2							2	2	2	2	0	0		
	共創探究ⅡA										2	2					2	2	0	0	0	0		
	グローバルAPⅠ											2					0	0	0	2	0	0		
	サイエンスAPⅠ											2					0	0	2	0	0	0		
	Science English											2					0	0	2	0	0	0		
	国際協力										2		2				0	2	0	2	0	0		
	文社選択1										2		2				0	2	0	2	0	0		
	文社選択2										2		2				0	2	0	0	0	0		
	理数選択										2		2				2	0	2	0	0	0		
総合	Thinking Design (共探)			1	1	1											1	1	1	1	1	1		
	共創探究ⅡB										2	2					2	2						
	グローバルAPⅡ												2							2				
	サイエンスAPⅡ												2							2				
共創探究F									2	2										2	2			
特別活動			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3		

共通	30	30	33	28	25	28	25	31	34	26	30	26	30	25	24	84	85	84	85	89	91
選択	0	0	0	2	5	2	5	3	0	4	0	4	0	8	9	6	5	6	5	11	9
合計	30	30	33	30	30	30	30	34	34	30	30	30	30	33	33	90	90	90	90	100	100

<関係資料 2> サイエンス AP 授業事後アンケート結果



サイエンス AP II の探究活動を振り返って自身が成長した点を、200 字程度で述べてください。

① 主体性・粘り強さ

- 諦めずに自分の力で進んでいこうとする力を身につけました。まずこれから研究をしていこうというときに目的を調べるところから今までなかった体験で難しかったです。世の中には色々解決したい問題があるけれど、自分の力で1年間のみをかけて探究していこうと思うとすぐには決められませんでした。また、目的やテーマが決まったとしても、ときどき自分達は何を最終的にしたいのかというゴールを見失うことが多くありました。しかし諦めず思考を繰り返すことで乗り越えられました。
- 活動の中では想定通りにいかない場面も多々ありましたが、そこで思考停止せず、「他の手段はないか」と柔軟にアプローチを変え、粘り強く最適な形を模索し続けた。また、失敗のリスクを事前に想定し、あらかじめ手を打っておくという準備がかなり大切であることがわかった。ゴールまでの道筋を論理的に立て、必要な要素を分解し、「今何をすべきか」を常に考えながら行動に移すことは、今後の他の活動にも通ずる大切な力だと思った。

② 仮説思考・論理的思考

- 自分の頭で考えたことを説明できるようになった。グループでする探究だから、自分はこんなこと考えてて、こんなことしたら自分の知りたいことがわかるということちゃんと自分で言語化できるようになった。こうなるだろうという仮説を立ててから、考えることができるようになったとおもう。前まではなんとなくこんな結果になるのではないかというざっくりした感じだったが、こう考えたからこんな結果になると思うということが自分の口で説明できるようになったと思う。
- これまでの探究活動において、私は、答えのない問いに立ち向かう力がついたと思います。もちろん、すでに論文などで発表されている内容もあったが、ほとんどが自分たちで答えを探す必要がある問いでした。答えのない問いに立ち向かう上で一番大切にすることは、仮説を立てることです。またその仮説をただ単に正しいか正しくないで終わらすのではなく、違うならなぜ違ったのか、正しいならさらに改善できることはないか考え、次回の実験に活かすことです。このようなサイクルを繰り返すことが、私が探究活動で得た力だと思います。

③ 計画性・逆算思考

- SAP が始まってすぐの頃はとりあえず実験してみて、その結果から色々考えてみよう！という感覚でいた。しかし数々の実験をこなしていくうちにこの処理で何が起ころのか、という予測を立てるのはもちろんのこと、「こういう実験結果が欲しいからこういう実験をして、、、」という未来からの逆算で物事を考えられる様になったと思います。また、仮に失敗してしまっても諦めずに行動できるようにもなりました。最後の方では失敗から学んで次に活かして行動できました
- この一年間のサイエンス AP を振り返ってみて私は計画的に物事を進める力が身についたと感じました。初めにどのような知識が必要なのかをはじめ、どのタイミングで何をしなければいけないのか、やるべきことを整理して進めていったおかげで、最後まで走り切ることができたと思います。バスの許可どりや根本からダメにしてしまいそうな事柄を最初に対処したのは良い判断だったと思います。やらなければいけないことを列挙して、必要なことから並び替える能力というのがこの探究で一番身についたんじゃないかと思います。

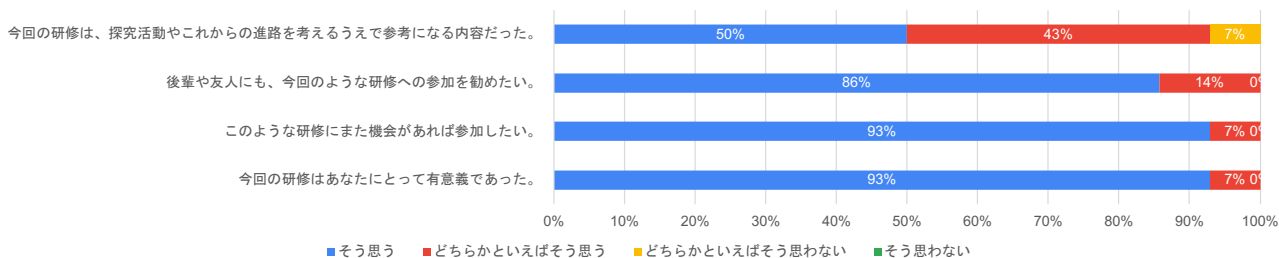
④ 協働・コミュニケーション

- 自分の経験からいい解決はないかと科学的な視点から問題に解決する力が身についたと思います。今までは課題として出されたものを実験したり、考察を考えて発表だったのに対して、今回は自らの課題を見つけて考えました。また、同じことを経験、疑問に感じた友達と一緒に探究活動をできたことも、違う視点から結果を見られたりしてよかったです。違う意見が出て、たくさん話し合ってお互いが納得できた探究ができたと思います。自分で考える力、伝える力がついたと思います。
- 3人で探究活動を進めるにおいて、自分ができないところは補ってもらいつつ、自分の得意な部分では最大限活躍できるようにという意識で取り組むことができた。特に、毎回のまとめや振り返りなどでその日にやったことをわかりやすくまとめたり、中間発表や最終成果発表でのグループのメンバーが考えてくれたものに対する客観的な視点からの指摘という面では、グループに大きく貢献できたと感じるとともに、成長した部分であると感じている。

<関係資料3> 校外研修事後アンケート結果

①サイエンスキャンプ立山研修

2025年度 サイエンスキャンプ立山研修



雄山への登山及び室堂平のフィールドワークの学び

- 雄山の登山を通して、教科書では知れない、実際に自分の目で見ることのでられる体験がたくさんあった。自分が特に感動したのは、雄山の地形である。あのゴツゴツとした地形になるのに、何万年もかかっていると考えると、とても神秘的に感じた。また学年を超えての絆も深まったと思う。登山している途中で危ないところがあれば声を掛け合っていたり、とてもいい雰囲気に登ることができたと思う。
- 立山登山と室堂平でのフィールドワークを通して、自然環境の厳しさと美しさを改めて感じました。標高が上がるにつれて植生や気温が変化し、高山特有の植物や地形を観察できたことは大きな学びでした。また、天候の急変や寒さを体感し、事前準備や安全管理の大切さを理解しました。声を掛け合い学年は違えど協力して登ることができ、自分の体力や忍耐力も向上しました。自然に直接触れることで、教科書だけでは得られない知識や感覚を得ることができました。
- 一番実感したのは、標高によって気圧が変わるということです。山上では少し歩いただけで息が切れてしまい空気の薄さを体験しました。他にも、天候の変わりやすさからも平地との気圧の違いを感じました。ただ座学として知っていた内容が生きた情報として自分の学びになり、これからも課外活動に積極的に参加していきたいです。
- 雄山への登山では身近に「生命」という壮大なものを感じられてとても自分の小ささとか、そういうものを改めて感じる事が出来た。今までであった嫌なこととか、ほぼ全部ふっとぶほど雄大なけしきだったから来年も行きたいと思った。また室堂でフィールドワークをした時にみつけたトリカブトの写真を撮るのを忘れててせっかく猛毒の花だったのに、それだけが心残りなのでまた個人的に山に登った時は必ず撮って帰ろうと決めました。

雷鳥荘で実施した各研修（1日目：福井先生、2日目：雷鳥荘オーナー中橋さん）

- その土地の人だからこそ聞ける話がたくさんあってとても興味深かった。自分は特に二日目の中橋さんのお話が印象的だった。雷鳥荘で出てくるご飯の話や、冬の期間の過ごし方など、行く前から気になっていたことを実際に聞くことができたので、とてもいい体験になった。またそれ以外にも、山の怖さであったり美しさを教えていただき、山の本当の凄さを知ることができました。とてもいい経験だったと思う。
- 一番驚いたことは、山荘での生活です。立山特有の季節感を学びました。特に雪が多過ぎて2階が玄関になるという話や雪の上に道ができるという話は立山の気候が日本の中でもとくべつなもの
- 2人の話はとても貴重な話だった。1日目の福井先生の話は、少し専門的で難しい部分もあったが写真などを使ってわかりやすく説明してくれて、雄山、大汝山、富士ノ折立を合わせて立山ということを知ることができた。雷鳥荘オーナーの中橋さんのお話では遭難者の救助や捜索にも携わっていて、ここにいる可能性が高いと推理を立てて捜索をしていることに感銘を受けた。
- 立山の成り立ちや地形について詳しく説明していただけてよかったです。火砕流が固まってできた溶結凝灰岩によく見られる板状やレンズ状の縞模様の構造の名前がユータキシティック構造であることや、氷河は氷がゆっくりと流れて移動しているものを指すことなど初めて知ることがたくさんありました。氷河によって削られてできた谷をU字谷といい、普通はV字谷であることも知らなかったの知識があると景色をみる時の着眼点が増えて面白く感じました。山崎カールも翌日の雄山登山の時に実際に見ることができて嬉しかったです。立山の氷河はあまり溶けていないと説明されていたので、なぜ溶けにくいのかの理由が気になりました。2日目の雷鳥荘のお話は私たちが実際に泊まっていたこともあり、イメージしながらお話が聞けたので非常に興味深かったです。立山のエリアは積雪量が圧倒的に多いと聞いていましたが、こんなにも大きい建物の屋根まで雪で隠れていたり、雪が積もるから谷や池によって隔てられず、道を気にしないで移動ができるということも面白く感じました。ヘリコプターで物資を輸送する際は、標高によってヘリの種類が異なり、コストも変わると知って驚きました。また、ヘリコプターが冬の方が載せることのできる人員が増える理由が、物理の知識によって説明できる点や生物の知識でわかる話など、理科を学ぶ楽しさを感じました。遭難事故の話や遭難している時は、遭難した人やその遺族、捜査する人のことを考えると心が痛みました。果てしなく広がる複雑な山で遭難してしまうと見つけることがいかに困難なのか、想像するのは容易かったです。しかし、それでも見つけてあげたいという気持ちはもちろんのことだが、死亡していることが確認できなければ死亡認定されずに遺族の生活が困窮してしまうなど、別

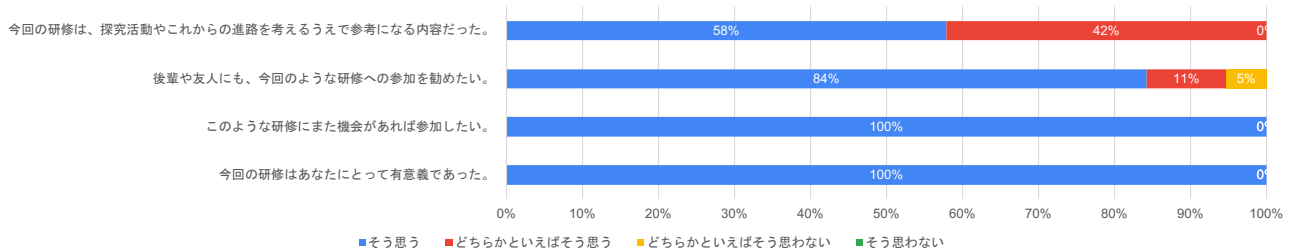
の問題も生じてしまうと聞いて、言葉にできない想いになりました。警察が捜査を打ち切った後やヘリコプター等が墜落した際に、山岳関係者が処理をしたり捜索したりしていることを知ってとても驚きました。遭難者を闇雲に探すのではなく、地形や気候、遭難者の年齢や登山経験などから遭難した場所や状況を推理し、捜索すると知って関心しました。遭難事故が起こったり、雷鳥荘まで物資を運んだり、チェーンソーで足場を作ったりとたくさん手間と苦勞をかけて雪のまだまだ残る寒い時期から入山を開始するところに疑問を抱きましたが、そこまでしたいほど、雪山には人を惹きつける魅力があるのだなと思いました。

研修の感想

- 自分にとってサイエンスキャンプは初めての体験だったが、参加して本当に良かったと思う。実際に行くことでしか知れないようなことがたくさんあった。次は、伊豆に行く予定なので、なんでって思うことを溜めて実際に自分の目で確かめたいと思う。
- ギリギリで応募して、登山最後まで登り切れるか心配な部分も多かったけど、とにかく最後まで頑張れたし登りきれたしよかった。自分だけでは絶対に行かないからこそ、唯一無二の体験ができたなと思ってとても良い経験になったなと感じている。登りきれた時の達成感がすごかったので、また他の山にも登ってみたいかも？くらいには興味は広がって良かったかなと思います！
- 本当に濃い3日間になったと思う。人生で初めて山に登るってなって初めは不安なことが多かったけどそんなこと全然どうでも良くなるぐらい充実して、夜の自由時間も友達みんなで星見たりカップラーメン食べたりして、修学旅行みたいですごく楽しかった。いつもはスマホやデジタルを使った遊びが多い中、今回の研修中は一番ハートに近い形の石見つけた人が勝ちとか、疲れたって言った回数多い人が負け、みたいな「今ここにあるものを全力で楽しむ」みたいな遊びができて、何故か心が綺麗になったような気がした。心配していた高山病と靴擦れもなんとか最終日まで耐えれたから、一緒に行っていた2年生4人で来年も立山に挑戦するか、富士山に行こうっていう約束もできてとても楽しく有意義な時間に出ることが出来た。今回の研修を実施してくれて本当にありがとうございました。
- とても楽しく、そして興味深い研修でした。参加できるのならまた参加したいほどです。

②サイエンスアイランド伊豆大島研修

2025年度 サイエンスアイランド伊豆大島研修



1日目：三原山への登山及び植生の調査活動、市石先生の講義とまとめの活動

- 三原山のカルデラの縁で、実際に噴気が立ち上る様子を間近で見られ、とても迫力を感じました。植生調査では、火口周辺は厳しい環境のため植生が乏しく、ハチジョウイタドリが目立っていました。火口から距離を離れるにつれて徐々に種数と被度が増え、植生の回復過程が観察できたのが興味深かったです。夜の講義では市石先生からは伊豆大島の噴火について生々しい現地経験を伺い、火山活動が生態系や人々の生活に与える影響を具体的に学びました。加えて、カラスバトの活動時間や鳴き声などの生態情報も共有していただき、調査と研究の両面で多くを学べた充実したフィールドワークでした。そして、モンゴルにまで植生調査に行かれていて、日本とはまったく異なる気候の中での調査はとても面白そうだなと思いました。
- 事前学習で、裸地からの植物の遷移について学習しましたが、実際に、火山である三原山のカルデラ周辺に生息している植物の多くはハチジョウイタドリで、遷移の過程と少し違っていると感じました。一方で、火口から離れると、陰樹林が形成されており、大まかには遷移に従っていると気づいた。火山島ならではの食物連鎖や遷移などがあり、私たちの住む地域の生態系との違いに驚いた。植物や噴煙を自分の目で見て、肌で感じた。さらに、土の変化に驚かされた。探究学習で土壌を調べており、発達度合いなどを見て、最後のパッチでは、かなり栄養豊富な土になっているのではないかと考察した。市石先生の話の中で、カラスバトの研究を、学生が行っておられると言うことを聞き、火山島である伊豆大島という環境を生かした活動に興味を持った。私も、琵琶湖という環境を生かした活動をしてみたいと思うようになった。
- 登山では、火山岩が大量に落ちていたりカルデラがあったりと、噴火したことが目に見えてわかる場所が多くあった。そして、一度生き物がいなくなった後に起こる植物再生の過程が一望できた。まさに、過去に起こったことが風景から伝わってくる「自然の履歴書」だった。植生調査では、普段体験できないような本格的な調査を教えてもらえて、今後の自然に関わる活動の役に立つと思った。市石先生の講義やまとめ活動は、伊豆大島の詳しい実態が学べて、もっと伊豆大島について知りたいと思わせる時間だった。個人的な部分で言うと、1日目のプログラム終了後に見た星空は、単純にきれいで心を打つものだった。

- 自分が特に印象に残っているのは、三原山に登った時のカルデラの地形です。山の中が見えるほどの大きなカルデラは今まで見たことがなかったので、実際に自分の目で見ることでよかったです。また、市石先生の講義は、実際に噴火の状況を見たからこそ聞けるとても重要なお話だったので、とてもいい経験になりました。
- 1日目の活動で最も印象に残っているのは三原山登山です。私は幼少期の頃はよく家族と山登りや川遊びなどに足を運び自然と触り合っていました。年齢を重ねると家族で予定が合わなくなり数少ない機会を自然に費やすことをしなくなり自然を感じる機会が少なくなっていました。三原山に登り、火口からの煙や山頂での強風を体感し自然の力を知りました。人工物が何もない世界で生活するのは意外と悪くないと感じました。
- 三原山への登山では、火山口を目指して友達と一緒に登ったことで、一体感がうまれたように感じた。火山を自分の目で見るのは初めてだったので、山から水蒸気が出ているレアな状態や噴火の影響で大きく窪んだ火山の部分を風が強いリアルな状況で見ることができて、自然の面白さを体感した。植生調査では、イタドリ、ススキが多く生息していることを学んだ。b地点では大きな部分を調査したが、その時に市石先生が「大きい割に意外と単純」とおっしゃっていたので、植生は大ききだけで決まらないのだと思った。また、調査が進んでいくにつれて、事前学習で学んだ通り、緑が豊かになっていったので、自然の流れはすごいと思った。市石先生の講義では、噴火が起こった場所だからこそその研究だと思ったし、先生の研究で教科書の内容が変わったと知って、今の事実が絶対に正しいとは限らないし、それを疑って研究することは価値のあることだと思った。

2日目：筆島、地層大切断面の観察、波浮港での海洋生物実習、ジオノス（旧火山博物館見学）

- 筆島が自然の力で形成されたことに驚き、もし今後噴火が起きれば再び大島と繋がるのかと想像し、より火山活動への関心が高まりました。断層を実際に目にしたのは初めてで、迫力があつたし、全長の長さや、人工的に削られていることを知り、地形が身近に感じられました。海洋生物実習では、石の裏に多様な貝類、カニなどが生息している様子を観察し、海の豊かな生態系を実感できました。火山博物館ではこれまで巡った場所を振り返り、映像や模型を通して伊豆大島全体を眺める形で学ぶことができ、理解をより深めることができました。
- 筆島に実際に外向き、またジオノスでの展示を見て、筆島は火山が噴火して周りに火山噴出物が堆積して、それが長い年月をかけて波に侵食され、あのような細長い筆のような形になったということを感じた。また、地層断面を見て、火山島である大島ならではの地層の曲がり具合が、とても面白いと感じた。地層の形を見ることができ、その土地の形を読み取ることができ、地層の成り立ち(川がどういった向きに流れていたかなど)を読み取ることができないのではないかと考えた。ジオノスでは、火山の成り立ちや噴火の時のメカニズムなどの事実を多く学んだだけでなく、実際に伊豆大島で火山と共に暮らした人々の暮らしや、火山が噴火したからこそ生まれた芸術や暮らしの術に感銘を受けた。特に、溶岩流を用いて作った灰皿や芸術作品が素敵だと感じた。
- 筆島などの海の付近では、火山の噴火によって島自体ができたことや、そのあと海に削られて今の形になったことが分かった。地層断面は、非常に長い歴史の上に伊豆大島が成り立っていることを表していた。そしてジオノスでは、島で実感した様々なことを裏付ける根拠を学ぶことができた。例えば、伊豆大島をつくった噴火は、複数のプレートの境目が集まっているから起こったと知った。また、伊豆大島だけでなく、他の島のことやさらに詳しい歴史についても学ぶことができ、とても有意義な博物館見学だった。
- 自分は今回の研修で、一番地層を楽しみにしていました。実際に見てみると教科書の地層とは比べものにならないくらい壮大で、感動しました。また、この地層ができるまでに何万年もかかっているということと、今自分がそれを見れていることがすごく、とても圧巻でした。
- 2日目の活動では地層大切断面が印象に残っています。長い年月をかけて形成された地層大切断面は人間が誕生した時の地表なんて上のほんの一部だと知り、人間の一生はなんて短いものなんだと思知らされました。地層ははるか遠い昔のことを今に生きる私たちに証明していて自然の偉大さを再確認しました。
- ジオノスで火山の噴火の様子や噴火後の様子を模型や実際の石、当時の資料など自分たちが実際に触れて、わかりやすかった。噴火の様子を写真を見ると、想像以上に激しく、市石先生が実際に見たとおっしゃっていたけれど危なくなかったのかや、恐怖を感じなかったのかなと気になった。また、筆島を見た時になぜあの形になったのかはしっかり理解することができていなかったけれど、ジオノスに筆島についての説明もあって理解したと同時に、筆島はいつかすべて削られて無くなってしまうのかなと思った。地層大切断面を観察したときに、市石先生が「前はもっとこっち側にあった」とおっしゃって、時間が経ったら目で見てわかるくらい削れてしまうのかととても驚いた。横にとっても長いのに、全ての場所で縞模様のはっきりして、いつ何が起こったのかは地層を見ればわかるのだと実感した。

研修の感想

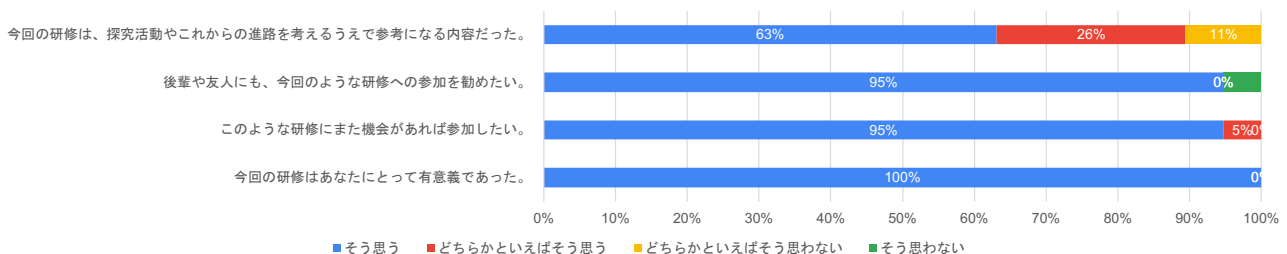
- 伊豆大島に自分から行くことはほとんどないだろうし、生物に興味があるからという軽い気持ちでこの研修に参加しましたが、実際に現地足を運んでみると、自然の迫りに圧倒され、想像以上に大きな学びを得ることができました。特にカルデラを初めて間近で見たときは、こんな壮大な地形が自然に形成されるということが信じられず、自然の力の大きさを実感しました。生物の教科書の常識を塗り替えた市石先生が、実際に見て確かめることの大切さを強調されていて、とても心に残りました。また友達とたくさん写真を撮って楽しい思い出も作ることができ、学びと楽しさの両方が得られる貴重な体験となりました。今回の経験を通して、火山や生態系についてさらに関心が深まったので、ぜひまた参加したいと思います。これまで準備してくださった先生方、本当にありがとうございました。
- 私はアウトドアが好きで、最初はこのキャンプには伊豆大島で登山をしたり海に入ったりしたいなという思いで参加しましたが、結果的に、伊豆の歴史や火山島の人々の暮らしなどに興味を持つようになりました。フィールドワークなどのサイエンス学習がとても充実していただけでなく、美味しい海の幸や温泉もあり、20人とい

う人数でいろいろな学年がいるという環境下で活動することができて、とても楽しい雰囲気だったのが良かったです。夜行のフェリーやジェット船も、普段できない体験で、移動も楽しめました。そういった面で、伊豆大島だからこそできる体験と、立守のサイエンスキャンプだからこそできる体験が両方楽しめて、参加してよかったと心から思いました！ 電車で席を譲ってもらったり、伊豆で登山客の方に笑顔であいさつしてもらったり、市石先生が、名前のわからない植物を、様々なツテを使って調べてくださったりして、このキャンプに関わってくださった全ての方に感謝したいと感じました。澤田先生、齋藤先生、大槻先生、たくさん私たちに素敵な経験をさせてくださって、本当にありがとうございました！

- 初めてのサイエンスキャンプだった上に、一年生がほとんどいなかったのが、不安な気持ちが大きかったが、先輩たちが優しく接してくれたおかげで楽しい研修になった。研修のプログラムも自然が好きで自分にとってはとても魅力的で、ずっと自然と触れ合っていた子供の頃の感情を思い出した。総じて自分にとって素晴らしい研修でした。
- 今回の研修を通して、教科書からは得られないことをたくさん学ぶことができました。本物に触れるからこそ得られるものがあった。地層を見たり、葉っぱの匂いを嗅いだり、波の音を聞いたり、現地のもので食べたり、火山岩に触れてみたりと、五感をフルで使って体験することができました。本物に触れるからこそ得られるものがあるもので、このような研修の機会があればまた参加したいと思った。
- 友達に誘われてなんとなく参加した今回の研修でしたが、最終日にはまだ帰りたくないという気持ちが生まれていました。最新技術に騒ぎ人目を気にする今の社会ですが、技術と離れ自然に帰りありのままの姿で生活の方が気楽で幸せだなと感じました。久しぶりにこんなにも自然と触れ合えてとても有意義な時間になりました。ありがとうございました。
- 教科書を読んで得られる知識に、新しい知識が加えられていく感じが面白かった。地面の湿り気や石の大きさ、風の強さなどその場に行かなければ得られない知識をたくさん得ることができて楽しかった。また、その場に行く、現地の資料を見るだけでなく噴火を実際に経験した市石先生の話聞くことで噴火の壮大さを強く感じた。資料から得られるものだけが知識ではなく、自分で見たり聞いたりすることも重要な経験になることを学んだ。

③恐竜博物館研修

2025年度 恐竜博物館研修



寺田先生の特別講義、館内の特別ツアー

- 今回は、恐竜とはそもそも何なのかという恐竜の基礎知識から福井県での活動まで幅広いことをわかりやすく教えていただけて嬉しかったです。私は特に、恐竜は見つかったとしても1属1種ということが多いということに驚きました。また、私は今まで死んだ恐竜が土に埋まってそのまま化石になっていると思っていたのですが、そうではなく、生きてきたままの恐竜が地層の中に入るといふごくまれな可能性でしか化石ができないと知り、今見れている化石の凄さにも驚きました。さらに館内の特別ツアーの時には、恐竜博物館の展示を見るだけでは知らないようなことまでたくさんおしえていただけたのがとてもいい経験になりました。
- この講義を受ける前までは自分の恐竜に関する知識は非常に浅く知らないことが多かったがこの講義を受けて恐竜についてさまざまな情報や特別なことを学ぶことができて私自身にとって非常に有意義な時間を過ごすことができました。自分は初めてこの恐竜博物館に行って、今までは恐竜って本当にいたのだろうかあまり信じられていなかったのが実際に見ることができて、貴重な経験をすることができてよかった。また寺田さんの説明は興味を引くようなものでわかりやすくとても面白かった。
- 特別講義を受ける前、私は名前にサウルスがつく物だけが恐竜だと思っていた。まさか、腰の骨に穴が空いていて、そこから足がまっすぐ下に生えていることが基準だったとは思わなかった。他にも、館内特別ツアーで本物の化石とレプリカの化石の見分け方についても教えてもらった。また、カプトガニの化石で足跡が凸していたり、それに対して甲羅は凹んでいてそこからカプトガニの死因を考察できるのも興味深かった。これから博物館に行くときの見方が大きく変わると思う。
- 特別講義では、恐竜などの古生物についての基礎知識から、少し踏み込んだ話までさまざまな話をクイズ混じりで聞け、新しく知識が身についた。また、その後特別ツアーでは、講義の内容を踏まえた解説や、予備知識など、横に書いてある説明文には書いていないようなこともたくさん解説していただいたり、質問にもたくさん答えてもらえ、すごく充実した1日になった。ここから、今まではふんくくらいだった古生物学に対する興味が、少し面白いかもという気持ちに変わった。

- 実際に恐竜の骨を見て、昔にこんな大きな恐竜がいたのかと感動した。寺田さんの説明がとても興味深く面白かったとても勉強になった。もう一度いきたいと思えるような施設だった。
- 恐竜博物館に行った事は1度だけあったけど、その時は館内を巡ったり書かれている文を軽く読んだだけだった。でも今回は、寺田先生にもっと深いたくさんの知識を教えていただいて、恐竜だけでなく生き物や昔のことについて興味が湧いた。私たちは寺田先生から「なぜ、こうなるのだと思う？」と様々な問題を問いかけてもらった。ただ見たり、聞いたりするだけではなくて、自分たちで考える時間があったり友達と相談しながら問いを考えたことがとても面白かった。

化石発掘体験、館内の自由観覧

- 私たちのグループは寺田先生の説明を受けた後に自由時間があったので、先生の話でお聞きしたことを意識しながら写真を撮るなどして回りました。短い時間でしたが、有意義な時間を過ごせて良かったです。化石発掘体験は一度したことがあるのですが、小さかったので訳も分からずやっていたので、今回しっかり説明を受けて、自分で石を一つ一つ見極めて発掘するのは難しかったです。宝物を探しているみたいで楽しかったです！また機会があれば挑戦してレア物見つけてみたいです！
- 化石発掘体験はネットの動画などで見たことがあって少しは知っていたが、思っていた以上に難しかった。石を叩くだけあって体力が必要だし、植物の化石でも見つけるのが難しいのに動物やましては恐竜なんてかなり見つけるのが難しく、忍耐力が必要だなと感じた。しかしこうやって自分の手で化石を見つけて実際に触れてこの植物が遠い昔生きていたのだと考えると感慨深いものがあるなと感じた。自由観覧でも特別ツアーの時間の関係上見ることのできなかつた場所を見て回ったのだが、遠い昔の動植物の化石の研究によって未知の世界を解明していけるところに魅力や浪漫を感じ、古生物学に興味を持った。
- 化石発掘体験では、初めの方はどれが普通の石で、どんなものに化石が入っているのか見当もつかなかったが、一つたまたま見つけると、そこから、化石の入っている石の特徴がわかってきた。他の石と比べても格段に黒くて、叩いてみると、すぐに割れる石に多く貝や葉っぱの化石が含まれていると気付いた。そこから、なぜ脆いのか気になる、調べてみると、岩石の形成過程と、化石自体との材質や化学的性質の違いに理由があるのだとわかった。今回の体験で、今までは体験だけで終わっていたのが、そこから疑問を抱き、自分で調べるといった過程まで至ったのは、自分にとってすごく成長になったと思う。
- 化石の発掘は想像以上に体力を消費して、専門家は毎日さかされてすごいいと思った。自分も意思を見ただけで何の生物かわかるぐらいの知識を増やしたいと思った。
- 化石を発掘するのが思っていたより手軽に体験できて驚いた。子どもから大人までみんな楽しく参加できるのがとてもいいなと思った。化石のことは授業で学んだことがあったけど、実際に自分で発掘して観察したのは初めてだった。目で見たり触れてみたり化石の種類を自分たちで予想したことが印象的だった。館内には、恐竜の模型があつてただ飾っているだけじゃなく、首が動いていたり音が鳴ったり、スクリーンが使われていたり世界観に引き込まれるようで楽しかった。
- 発掘体験では、残念ながら恐竜の化石は見つけられず、植物の化石だけでしたが、自分の手で何千万年前の痕跡を掘り出す体験はとても貴重で、地層の一つひとつに歴史が刻まれていることを実感しました。また、自由時間では恐竜の公演を観に行きました。まるで本物のような質感の恐竜が目の前まで迫ってきて、迫力に圧倒されました。福井の恐竜に対する理解がとても深まりました。動きや鳴き声もリアルで、恐竜が生きていた時代にタイムスリップしたような感覚でした。体験を通して、恐竜や地球の歴史への興味がさらに深まりました。

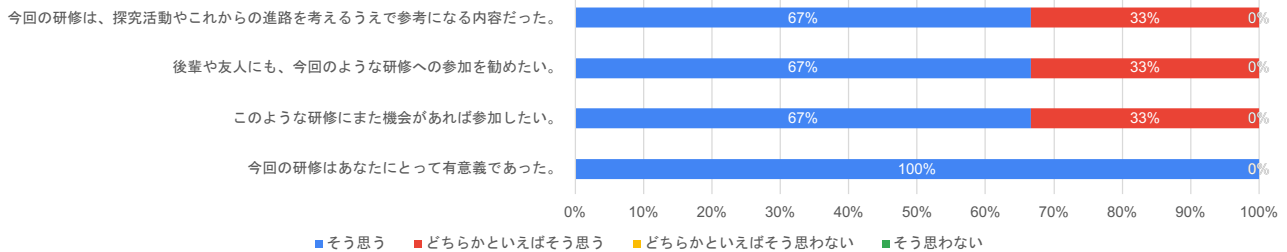
研修の感想

- 私は中学の頃から高校にはこんな活動があるんだと思ってずっと行きたいなと思っていたので、今回参加できてよかったです！また、恐竜について特別に詳しいということではなかったのですが、しっかり先生の話も聞き、メモもたくさん取れたので、聞いた話をぜひ家の人や友達にも教えてあげようと思いました。私は来年文系への進学を希望しているので、今回のような活動に参加する機会は少ないかもしれませんが、自分でもまた恐竜博物館に行ってみたりするなどして、自分で機会を見つけて調べたりしたいなと思いました。また、私が今回の寺田先生の話で1番記憶に残っているのは、人とのつながりや出会いを大切にしてくださいという話です。私も今年色々な活動に参加する中で、たくさんの人との繋がりをもててすごくよかったなと思っていたので、これからはそれは大切なんだなと思うことができました。ありがとうございました！
- 恐竜に関してはあまり知らず、どのような魅力があるかも考えたことがなかったが今回のツアーや講義によって様々なことを経験して、知られていなかったことやわからなかったことを自分たちの力によって解明、考察することができるというところに恐竜などの古生物学の魅力があるんだということ学んだ。自分の進みたいと考えている進路に直接的には関係しないが自分のあまり知らない世界について詳しく知ることができてとても良い経験ができたと感じた。
- 移動時間が長かったのが難点だが、そこをもってしても楽しかったし面白かったと思える、有意義な研修だった。今後このような研修があつたら、自分は文系に進むつもりではあるが、参加してみたいと思った。
- 実際に博物館に行き、五感で学んだ方がより理解できると感じた
- 近頃、東京や京都の博物館に行ったり、美術館に行ったりと、色々観て回るのが好きになったので、参加希望を出させていただいたのですが、自分が恐竜のことを全然知らなかったと思い知りました。新しい知識を専門的な人に教えてもらったので普通に博物館を見て回るより、非常に有意義な体験をすることができました！とても楽しかったです！ありがとうございました。

- 恐竜の知らなかった知識から今後考えてみるべき行動など幅広い面で学ばせていただきました。特に化石の様子から状況を考えるのは本当に面白かったです。今度また行く機会があれば同じように頭を働かせて考えてみたい、そしてこの姿勢を学校生活でも生かしていきたいと思いました。

④太地町立くじらの博物館研修

2025年度 くじらの博物館研修



【くじらの生物学的な側面】について、博物館見学や中江さんのお話を通して学んだこと、成長したこと、新しい気付きや発見などを書いてください。

- 今回の博物館見学と中江さんのお話を通して、様々な点について学んだが、特に自分が印象に残っているのが半球睡眠についてだ。まず人間は睡眠を取る際に両目を閉じ、両脳を休ませて眠るのが普通だが、クジラやイルカ達は、私たちと同じ哺乳類で、息をしなければならぬ。そのため呼吸方法が進化し、片脳だけ休ませながら眠ることを可能にした。それが私にとっては非常に新鮮で人間にはない点だったため、印象に残った。他には、くじらを使ってテニスのガットを作っていたり、石鹸を作っていたりと、様々な分野で用いられていることを知った。
- クジラの博物館や中江さんの話を聞いて自分の中でのクジラに対するたくさんの新しい知識を得ることができました。クジラはそもそもハクジラとヒゲクジラの2種類あって多くのクジラはハクジラである、や人間と比べた時の骨の作りの関係だったり、クジラの祖先だったり、肌の質感だったり噴気や畝だったり色々な発見がありましたがその中でも1番印象に残ったものはやっぱりイルカとクジラの違いが大ききくらいしかないしその定義も地域ごとで違うというのが面白くて印象に残りました
- 知らない生態系のことがよく知れた。目で見て肌で感じることができた。漁師さんなど、そこで働く方の思いや気持ちに寄り添って考えられる機会を得られたことが自身の素晴らしい学びとなった。興味がある分野であったので、自分の将来に繋がりたいと思ったが、まだまだ知らない世界がたくさんあることを痛感した。
- 鯨の生態については全くわからないことだらけで驚かされてばかりでした。私たちが思い描くイメージのくじらは実は存在しなかったり、イルカとクジラに大きな差はなく大ききで判断されていたり初耳の豆知識のようなことについて学ぶことができたし、元々は私たちと同じ陸で生息していた哺乳類が長い年月の中で体が変化し今の鯨になっていったと知った時は壮大なスケールの話に感動しました。いずれ僕達人の姿も変化していくのかもワクワクしました。
- 博物館見学や中江さんのお話を通じて学んだことは、クジラの特徴や生物の歴史、進化による変化などだ。例えば、いつも自分がクジラを思い出して書いていたクジラは噴気が二つで畝があるものだったが、それはナガスクジラとセミクジラの二つを組み合わせたもので、ナガスクジラは噴気が1つで畝があり、セミクジラが噴気が2つで畝がないことを知った。また、クジラとイルカの違いが大ききだけだと知った。博物館見学ではクジラについてより詳しく知ることができた。
- 今回のクジラに関する講義で、クジラの意外な特徴や、今まで何となくで知っていたクジラの生態を理解することができた。生き物たちが、自分の知らない魅力を多く持っているからこそ、それ学ぶことが面白いのだと実感した。また、今回はクジラの「違い」という点に着目したお話を聞くこともできた。生物同士の違いが分かれば、それを参考に、それぞれに適した環境をつくることに繋がるのではないかと考えた。進化のお話では、現在の進化論が数少ない情報と憶測でできているからこそ、簡単にひっくり返るという点に、ロマンを感じた。

【くじら漁の伝統や文化的な側面】について、桜井さんや貝さんのお話、博物館見学などを通して学んだこと、成長したこと、新しい気付きや発見などを書いてください。

- 桜井さんや貝さんのお話を聞き、特に印象に残ったのはシーシェパードについてだ。太地町ではまず船を使ってクジラが嫌な音を出しながら、端にクジラを追い込み、そこで捕殺をして完了するというものなのだが、そこでシーシェパードはよくクジラを殺すな！などの言葉を発したり、行動で邪魔をしたりなど、反捕鯨活動を行っている。たしかにクジラ達が可哀想だという意見はごもっともだと思うし理解もできるが、やり方が納得できない。漁師たちの邪魔をすることはもちろん良くないことだし、何より日本人は命に感謝しながら「いただきます」を行っている。そのため、シーシェパードの行為は私は到底納得できないと思う。
- クジラ漁の伝統や文化的についても深く考えさせられるものがありました。今まで人はいろんなところでクジラを隅々まで活用していることを知ることができました。そして今もどのような活用法があるかを画策していること

を知れました。肉も食べてみたら案外食べれて身をもって感じれました。そして漁を自分の目で見てその自然とのつながりを身近に感じることができました。そして、シーシェパードの妨害や世界からのクジラ漁に対する認識などのクジラ漁自体以外の問題もあることを知れました

- くじらの知識がそこまでなかったのが、なるほど、そうか、など、一つ一つが発見であった。話も面白かったが、伝統や文化的なことは未知だったので驚くことばかりだった。博物館の仕事に興味があるので、その観点からも今回参加して良かったとすごく思う。
- 太地町とくじらのこれまでの歴史から現在に続く捕鯨の文化の現状などについて学ぶことができました。旧式の捕鯨方法から危険性を感じて現代の漁法に変更していたり、クジラの食べれない部分を捨てるのではなく工芸品にしたり日常生活に活用したりとさまざまな工夫が見られて昔の人の知恵を感じました。
- 文化的な側面について桜井さんや貝さんのお話を聞いて、和歌山県太地町にあるもの、お店についてや捕鯨の方法、カヌーなどの観光としての太地町、そして捕鯨活動に対して反対するシーシェパードの存在について学んだ。特にシー・シェパードに代表される反捕鯨団体との対立という、避けては通れない現実について自分は印象的だった。一方的な主張の対立ではなく、異なる価値観がぶつかり合う現場の緊張感を知ることで、国際社会における文化の多様性と相互理解の難しさを痛感した。
- 太地町とクジラには、多くの人との複雑な繋がりがある。それは簡単に手放せるものではなく、クジラを取らなくなると、生活が成り立たなくなる人がいるほどだと知った。自分は元々、生き物を守るべきだという考えを強く持っており、捕鯨に対して否定的だった。しかし、「とっても問題ないクジラの種類を、とっても問題ない数取っている。食べたいと思う人が今でもいる。」という話を聞いて、狭い視野で物事を否定することの問題点を実感した。だからこそ、正しい情報から広い視点で、社会に意見するべきだと考えた。

研修の感想

- 今回の研修は私にとって非常に有意義な時間となった。私はこの研修に参加する前はあまりクジラの知識がなかった。知っていたこともハクジラとヒゲクジラがいるということぐらいだった。それが今回の研修のおかげで知識を深堀するだけでなく、新たな知識を得ることができた。例えば、クジラの生態についてや太地町と人間とクジラの関わりなど。私は後輩たちにこの研修を大きく勧めたいと感じている。実際にイルカやクジラに触れ、クジラの生態系を学びたい人だけでなく、とりあえずなんとなくいいから参加してみる。このマインドで参加するだけで、楽しむことができるからだ。
- 今回の研修を通して私はクジラと人の関係について深く学ぶことができ楽しい研修であると共に、まだクジラ漁についてはまだ課題が残っていることが多いことに気づかされました。クジラの祖先が陸から海に入ってからそれがやがてクジラになったりと歴史の面だったり、実際の漁を見たり話を聞く中でのシーシェパードの活動などを知ってどうすればいいかなど、昔と違って非可食部位をすてられているなどの問題もあってどうすればいいか考えさせられる問題が多かったです。一言で言うなら色々知ったり考えられて楽しかった。
- 豪華な会席料理に驚いた。美味しい料理とそこでしか学べない学習が出来て、寒い時期だったが、本当に行って良かったと思った。昔から生物が好きで話や見学を通してこれからも生物学を自分自身深めていきたいと強く思った。
- 私は今回の研修で「太地町がクジラと共に生きること」を重要視していると強く感じました。現在ほどの地域でも禁止されている捕鯨が唯一許されている地だからこそ、鯨のことを第一に考えた漁を行っていることを学べた。太地に根強く残る文化を守る人々の意思が見られました。今回学んだことを来年の共創探究に生かしていけるようにしたいです。
- 和歌山県太地町での研修を通じ、古くから続く捕鯨の歴史とクジラの生態への理解を深めることができた。クジラの博物館やお話からは、貴重な骨格標本や資料から、地域が鯨と共に歩んできた独自の文化を学んだ。また、道の駅や太地漁協スーパー、クジラのお肉を食べる体験を通じ、命を余すことなく活用する精神が今も息づいていることを実感した。今回の学びを糧に、自然との共生や文化の継承という多角的な視点から、鯨類への探究をさらに進めていきたい。また、自分の将来について一つの候補としてしっかり考えたい。
- 今回の研修では、自分が今までから興味があった生物学的な内容に加えて、文化的な部分も学べた。環境問題などを考えるにあたって、「人間の生活が現実的に成り立つ範囲」という制約が付き纏ってくる。そのような、人と生き物がバランスを取るという部分をより深められたと思う。また、漁の様子を見たり、直接クジラを見たりして、印象に残る場面が多くあったので、何かを学ぶにあたって、現地に足を運んで直接見ることの大切さを感じた。

<関係資料 4> 大学授業見学会報告書

4 月実施 大学授業見学会 報告

1. 全体概況

本企画は、昨年度実施した同様の企画と比較して、対象を高校 1 年生から 3 年生までの全学年とし、より広範な進路意識に対応する形で展開した。特に今回は、昨年度が理系学部に限定した実施であったのに対し、一部の学部を除き、文系・理系を問わず幅広い学部で実施することができたため、文理選択や進路選択の視野を広げる機会となった。実施時期を 4 月末としたことで、学年のスタートと同時に生徒が将来の進路について考えるきっかけを提供することができ、学年に応じたキャリア意識の醸成を狙った。特に、高校 3 年生にとっては進路選択を見据えた具体的な情報収集の場となり、高校 1・2 年生にとっては今後の科目選択や学びのモチベーション向上につながる機会となった。

参加者は高校 3 年生 26 名、高校 2 年生 42 名、高校 1 年生 38 名の計 106 名であり、申し込み延べ人数は 175 名にのぼった。この結果は、年度当初でありながらも、生徒たちが自らの進路や将来に対して高い関心を持っていることを示しており、今後も本企画が継続的な進路支援として重要な役割を果たすことを再確認する機会となった。

2. 実施規模

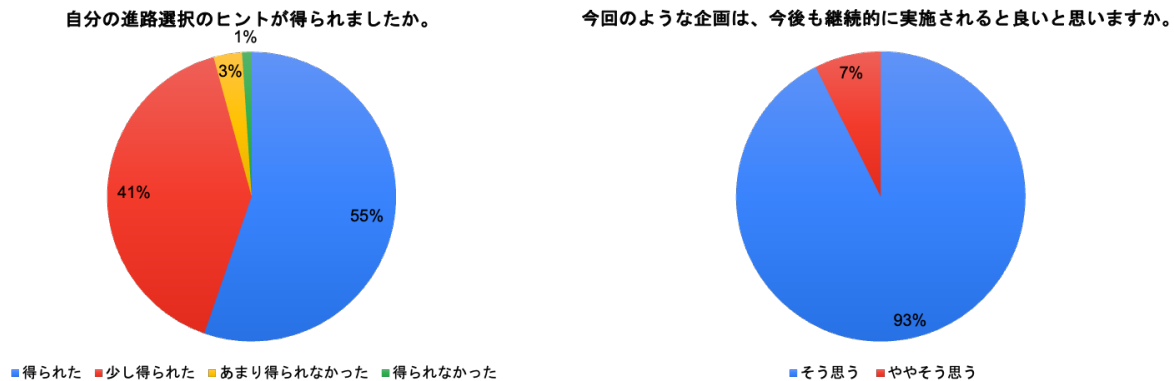
2.1 申し込み生徒数 高校 3 年生:26 名 高校 2 年生:42 名 高校 1 年生:38 名

2.2 授業ごとの申し込み者数

学部	講座名	受講人数
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学原論 (V) (スポーツ健康科学科)	9
経済学部	基礎マクロ経済学	9
経済学部	経済数学 I	5
食マネジメント学部	食科学入門 (食マネジメント学科)	12
生命科学部	エネルギー変換化学 (応用化学科)	2
生命科学部	植物生理学 (生物工学科)	2
生命科学部	生物科学 2 (生命情報学科・生命医科学科)	9
生命科学部	地球環境学 (生物工学科・生命医科学科)	5
生命科学部	統計熱力学 (応用化学科・生命情報学科・生命医科学科)	4
生命科学部	分子生物学 (生命情報学科・生命医科学科)	7
生命科学部	有機化学 III (応用化学科・生物工学科)	4
薬学部	病態学 B (薬学科 (必修) 創薬科学科)	10
薬学部	薬物治療学 C (薬学科 (必修) 創薬科学科)	14
理工学部	センサ工学 (ロボティクス学科)	8
理工学部	ランドスケープデザイン I (建築都市デザイン工学科)	8
理工学部	幾何学 I (数理科学科)	3
理工学部	建築史 I (建築都市デザイン工学科)	12
理工学部	固体の物理学 3 (物理科学科)	2
理工学部	公共輸送システム (環境都市工学科)	1
理工学部	数理科学セミナー (解析) (数理科学科)	1
理工学部	先端建設技術 (環境都市工学科)	2
理工学部	電気回路 II (電子情報工学科)	3
理工学部	電子回路 II (電気電子工学科)	3
理工学部	電子情報工学通論 (電子情報工学科)	5
理工学部	特殊講義 II (まちづくり最前線) (環境都市工学科)	2
国際関係学部	Bridge to International Studies I (IR18-CA201)	6
国際関係学部	憲法 I (IR18-EAJ201)	4
産業社会学部	映像表現論 (S) (現代社会学科)	4
産業社会学部	広告論 (S) (現代社会学科)	2
産業社会学部	ヘルスマネジメント論 (S) (現代社会学科)	2
産業社会学部	発達保障論 (S) (現代社会学科)	1
総合心理学部	健康・医療心理学 (総合心理学科)	14
	合計	175

3. 事後アンケート

3.1 定量的なアンケート結果について



「自分の進路選択のヒントが得られましたか。」と「今回のような企画は今後も継続的に実施されると良いと思いますか。」の項目ともに、参加者の95%以上から肯定的な回答が得られた。

3.2 自由記述について

「1. 今回の授業見学会に申し込んだ自分自身の目的を述べてください」と「2. 今回の企画の感想を述べてください」の記述内容について、それぞれ記述の傾向と主な記述を挙げる。

「1. 今回の授業見学会に申し込んだ自分自身の目的を述べてください」

記述内容の傾向と主な記述例
<p>① 進路・学部選択のため</p> <ul style="list-style-type: none">将来的にこの建築都市デザイン工学科に進みたいと考えており、どのようなことを学んでいるのかが気になったから。自分の第一志望の学部を実際に見学してみて、本当に自分の学びたいことに合っているか判断するため。自分が将来どのような学びを受けたいかを知れる目安になるものが体験できると思ったから。自分が大学でどの学部に入るかまだ決まっていなかったから今の自分が興味のある学部がどんなことをしているのかや、自分が学びたいと思っているものかを確認するために授業見学会に参加しました。実際の大学の授業の雰囲気や内容を自分の目で確かめるため。将来、進学を希望する学部が自分の学びたいこと、興味のあることかを確認するため。自分の興味を持っている薬学部と生命科学部を実際に見てみるため。 <p>② 大学の授業・雰囲気の体験</p> <ul style="list-style-type: none">大学の授業は、中学や高校の授業と比べてどう違うのかを自分の中ではっきりさせるため。大学の授業の雰囲気や学部、学科選択の参考にしようと思ったから。大学の授業がどんなものなのかや、大学の雰囲気を知るため。自分の目指す学部の授業雰囲気や内容を知るため。自分の大学生活が想像できず、本物の大学生がどんな姿なのか知りたかったからどんな勉強をしているかを知るため <p>③ 理系・文系の進路選択や学問分野の比較・検討</p> <ul style="list-style-type: none">文系と理系のどちらに進むかの判断材料を増やすため今文系だけと理系の学部に進みたいから、どんな授業をしているのか気になった理系科目の授業がどのような雰囲気で行われるのか、大学での学び方を知っておきたいと思ったから。理系に進むので、BKCの授業見学を試みたかったから国際のことには興味があって、憲法の観点から歴史を学べると思い参加しました。

「2. 今回の企画の感想を述べてください」

記述内容の傾向と主な記述例

① 大学の授業を体験しての気づき・感想

- 大学の授業は難しいけれどより学びたいと思った
- 高校生向けにアレンジされたものではないので、初めは少し不安だったが普通の授業内容を知れたので進路を決める上でとてもためになった。
- 難しい単語だらけで、集中し続けながら授業を受けることがとても労力を使うと分かりました。薬物治療学では、アナフィラキシーショック等のアレルギー反応の原因と治療方法について学びました。日常生活を送っている中で遭遇する可能性が十分にあるものなので、人の命を守るためにも治療方法を適切に学んでいざとなった時に適切な対応ができるようにしておくべきだと思いました。
- 95分授業は思っていたよりもすぐに時間が過ぎました。また、教授がただ話すだけでなく生徒が前でなにかを発表したり映画を見て学んだりと予想していたよりも興味深い授業になりました！

② 進路選択への影響・学部理解の深化

- 自分の進路を決めるのにとっても良い経験になりました。
- 自分は理系にしか興味がないと思っていました。しかし、まちづくりの講義を受けて少し考えが変わりました。
- 実際の大学生が受ける授業を見学するという、なかなかできない貴重な経験をさせていただいて嬉しかったです。自分の進路について現実的に考える機会にもなったと思うので、次回もぜひ参加したいと思いました。
- 自分の興味のある学部の授業に高校のうちから参加できることで大学生になるときに自分がどの学部に入るか選択肢を探してあげるからとても貴重な体験だと思う。
- この学部では心理学の何を学ぶのか実際授業を受けてみてわかった。今回は健康心理学のみの講義だったが、他の心理学についても実際に学びたいと思った。

③ 大学の雰囲気・施設・環境の実感

- 大学は高校や中学の授業と比べて、どう違うのかを自分の中で明確にできたので、とても良い経験になりました。
- 授業の内容は分かりませんでした。が将来の自分の姿を想像することができ、今回の目的を果たすことができました。大学の授業の空気感を味わうことができ、得るもの多い貴重な機会でした。
- 大学の授業について想像するだけしか出来なかったけれども、実際に体験することで新しく学べるが多かったです。ホームページの情報だけでは得られないことも知ることが出来、何よりその学部でどのような事をどのように学ぶのかを大学生と一緒に学ぶことで雰囲気を掴むことができ良かったです。他の学部も参加したいと思いました。

④ イベントそのものへの評価・改善要望

- 高校生で大学の授業を受けることができる機会は貴重なものだと思うので、経験できてよかった。今回は1授業しか申し込まなかったが、次回があれば別の授業も受けてみたいと思った。
- この度は私たちの授業見学を受け入れてくださりありがとうございました。大学選択の参考にさせていただきます。
- 普通の高校生では分からない付属校ならではの企画なので、大学の様子を知れてすごくよかった。いい体験になった。
- こういう企画があると、勉強のモチベーションにもなるし大学の授業の雰囲気などをみれてとてもいいなと思いました

1. まとめ

- 実施日の約2週間前という直前の案内であったうえに、祝日の開催であったにもかかわらず、延べ175件の申し込みがあったことから、生徒の関心の高さがうかがえた。本企画の趣旨通り、生徒が進路やキャリアについて主体的に考える機会となり、「勉強のモチベーションが上がった」との記述も見られた。
- 昨年度の実施内容を踏まえて計画したため、各学部への依頼や生徒への告知は概ね円滑に進んだ。ただし、一部の学部事務室において時限の誤記が見られたため、今後はシラバスの該当ページのリンク添付をあわせて依頼するなど、正確性向上を図る必要がある。
- 理工学部「固体の物理学Ⅲ(物理科学科)」では、担当教員のご厚意により特別な実験を実施いただくなど、本企画のために工夫を施していただいた事例もあった。各学部への依頼をより早期に行うことで、生徒にとって意義ある授業の実施がより期待できる。

11月実施 大学授業見学会 報告

1. 全体概況

本大学授業見学会は、高校3年生12名、高校2年生29名、高校1年生32名の計73名が参加し、申し込み述べ人数は102名となった。学年を超えて多くの生徒が参加したことから、生徒が自身の進路や将来について主体的に考え、大学での学びに対して関心を高めている様子がうかがえる。

本見学会は11月に実施し、高校1年生にとっては文理選択、高校2年生にとってはコース選択や将来の進路選択を見据えた機会として位置づけ、特に高校2年生を主な対象として企画した。また、10月に実施した高校1年生対象「OB・OGによる学部説明会」および高校2年生対象「学部の魅力発信 Week」に続く形で実施することで、生徒が大学での学びをより具体的にイメージし、自身の進路について段階的に考える機会となった。さらに、高校3年生にとっても、第一志望学部に加え、第二志望以降の学部選択を検討する上で有意義な機会となった。

2. 実施規模

2.1 申し込み生徒数

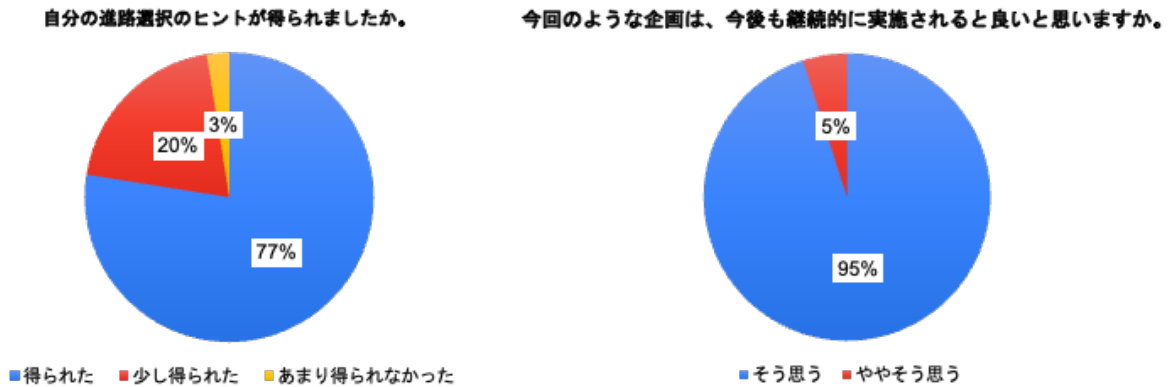
高校3年生:12名 高校2年生:29名 高校1年生:32名

2.2 授業ごとの申し込み者数

学部	講座名	受講人数
法学部	憲法Ⅱ(人権)JB	1
法学部	政治コミュニケーションJ	3
法学部	国際法総論ⅡJ	4
法学部	政治文化論J	1
産業社会学部	スポーツメディア論(S)	2
国際関係学部	IR18-EE223 Microeconomics(RB)	3
国際関係学部	IR18-EAJ209 平和・紛争論(R)	7
国際関係学部	IR18-CB101 Academic Skills I (Advanced+)(RF)	2
国際関係学部	IR18-BA103 English for International StudiesⅢ (Theme-based)(RF)	2
政策科学部	都市マネジメント論	12
総合心理学部	発達心理学概論(発達心理学)	18
経済学部	コーポレートファイナンス(授業コード33827)	1
スポーツ健康科学部	スポーツ教育実践学	1
食マネジメント学部	食科学概論	5
生命科学部	分析化学実験	3
生命科学部	免疫学	8
生命科学部	計算機化学	1
理工学部	関数解析学Ⅱ	1
理工学部	固体物性Ⅰ	1
理工学部	量子力学	1
理工学部	電子回路Ⅰ	1
理工学部	機械力学	1
理工学部	知能科学	3
理工学部	ロボット制御システム	7
理工学部	環境都市基礎数学Ⅱ	1
理工学部	水環境学	1
理工学部	建築構造デザイン	2
理工学部	建築設備	1
理工学部	都市計画Ⅰ	1
薬学部	薬物治療学B	5
薬学部	微生物学	2
合計		102

3. 事後アンケート

3.1 定量的なアンケート結果について



「自分の進路選択のヒントが得られましたか。」と「今回のような企画は今後も継続的に実施されると良いと思いますか。」の項目ともに、参加者の95%以上から肯定的な回答が得られた。

3.2 自由記述について

「1. 今回の授業見学会に申し込んだ自分自身の目的を述べてください」と「2. 今回の企画の感想を述べてください」の記述内容について、それぞれ記述の傾向と主な記述を挙げる。

「1. 今回の授業見学会に申し込んだ自分自身の目的を述べてください」

記述内容の傾向と主な記述例
<p>① 学部・学科の内容や学びを具体的に知りたい</p> <ul style="list-style-type: none">政策科学部に入学したいと思ってるから志望学部での授業が具体的にどのようなものなのか知るため。希望している学部である生命科学部生命医科学科の授業を体験し、実際に雰囲気や難易度が自分に合っているかを確認すること。大学入学時、授業を受けている自分が想像してみたかったため。法学部の雰囲気を知ること、具体的な勉強内容を知ること
<p>② 進路選択・学部選択の判断材料にしたい</p> <ul style="list-style-type: none">授業を見学して学部を決定させたいから。情報理工学部か理工学部で迷っていたため、情報理工学部は何回か話を聞いたり、見に行ったりしていたが理工学部はほとんど見たことがなかったため最後の機会として申し込んだ学部選択をまだ迷っているため、実際の授業を見てみたかった。一年後の学部選択に活かすため
<p>③ 大学の授業やキャンパスの雰囲気を体験したい</p> <ul style="list-style-type: none">実際に大学の授業やキャンパスを体験してみたいと思ったから。大学での授業の難しさや雰囲気を掴むため。国際関係学部に1日だけ通ってみて大学生活を知るため大学の授業の雰囲気の体験
<p>④ 将来とのギャップを小さくするため(早期体験・事前理解)</p> <ul style="list-style-type: none">高校1年生という早い段階で大学の授業を体験し、自分に合った進路を見つけるため。文理選択のために、大学ではどのようなことを学ぶのかを実際に体験したいと思ったから。実際に行きたい、もしくは興味のある学部の授業を受けることで、自分の中でどの学部に行きたいか明確化できるように行った。90分の授業は長く感じるが、いきなり大学1年生で直面するより今のうちから体験することで本番とのギャップをなるべく最小限に抑えるため。

「2. 今回の企画の感想を述べてください」

記述内容の傾向と主な記述例

① 学部・学科の内容や学びを具体的に知ることができた

- 都市がどのようにいつ、成り立ったのか、コンパクトシティまでの道のり、現代、そしてこれからのまちづくりの問題について学んだ。
- 政策科学では、都市マネジメントについて学んだ。時代の移り変わりによって、インフラ整備や移動手段が変わることを知った。総合心理では、幼児のアタッチメントについて学んだ。子供の愛着や移行対象について知った。
- 法学の面白さを感じた。もっと難しく面白くない学問だと思っていたけれど授業を受けて生活と密接に結びついていることを感じもっと学びたくなった。
- 見学を通して、教科書だけではわからない免疫のしくみの面白さを実感した。クローンなど言葉は知っていても何がどうなってクローンができるか、抗体がどのような構造なのか、なんとなくイメージがたった。

② 進路選択・学部選択を考える材料になった

- 授業がとても興味深く、来年はこの場にいられたらいいなと感じた。
- 今回自分の興味のある内容の講義を受けてみて、大学での学びをイメージすることができた。今回の授業見学会での学びを参考に、文理選択をしたと思う。
- 実際に授業を聞いたことでその学部がどんなことを学べるのかがよく、リアルに分かったし、すごく楽しかったから勉強をするモチベーションになった。
- 自分のイメージと大きなギャップはなく、聞いていて興味関心が高まる感覚が自分の中であつたので、それを確かめられただけでも、授業見学会に参加できてよかったと思いました。

③ 大学の授業やキャンパスの雰囲気を感じることができた

- 大学での授業の雰囲気を感じることができた。また、大学入学前の良い準備ができたと思う。
- 実際の授業を見学してみて、その学部の雰囲気や学ぶことの難易度などを感じることができたと思う。また、実際に大学生が受けている長時間の授業を体験したことで、大学での生活をよりイメージしやすくなったと思った。
- 授業の雰囲気や、大学生の様子、95分授業を受けれた。
- 実際に大学ではどのように授業が受けられているのか実感できた。

④ 将来とのギャップを把握し、大学生活を具体的に想像できた

- 当たり前のことだが、内容が難しかった。高校までで習ったものが基盤となって新しい内容に進んでいくが、大学らしい難易度を感じた。また90分授業を体験することで本番長いと感じないようにしようと思った。今回だったが、やはり難しかった。
- 理工学部の授業では物理と数学が重要であることがわかったため、復習すべきだと思った。
- 私のイメージと大きなギャップはなく、大学生の雰囲気や授業をどのように受けているのか、自分の目で確かめることができました。

4. まとめ

- 祝日の開催であったにもかかわらず、延べ102件の申し込みがあったことから、生徒の関心の高さがうかがえた。本企画の趣旨通り、生徒が進路やキャリアについて主体的に考える機会となり、「勉強のモチベーションが上がった」との記述も見られた。
- 担当教員のご厚意により、高校生に向けて特別な対応を実施いただく講座もあった。各学部への依頼をより早期に行うことで、生徒にとって意義ある授業の実施がより期待できる。

<関係資料5> 2025年度 サイエンスAP 生徒課題研究タイトル一覧

研究 番号	タイトル	大学との連携等
01	定期考査期間における睡眠と成績の関係	立命館大学生命科学部
02	共鳴構造の違いによる音量の変化 ～竹製スピーカーを用いた実験～	
03	VRを用いたオンラインライブ体験の効果の検証	立命館大学 スポーツ健康科学部
04	衣服推薦を目的とした機械学習による選好傾向の分析	立命館大学情報理工学部
05	ジャガイモ薄片で見る紫外線照射による抗酸化作用	
06	規格外作物を活用したバイオプラスチックの可能性	立命館大学生命科学部
07	ナットウキナーゼの血栓溶解効果	
08	食品の保存性向上を目的とした自然由来によるカビ抑制効果の検証	
09	ポリ乳酸を用いた紙製品コーティングの可能性の検証	
10	画像認識AIを用いたバスの混雑状況可視化システムの構築	
11	風を分散させる最適な構造の模索	立命館大学理工学部
12	食物アレルギー対応ピザの再現 ～小麦・乳製品を使わずにどこまで本物に近づけられるか～	
13	レッドローチによる紙三種類の摂取量の比較	
14	分数同士の除去における視聴覚的補助教材の開発	
15	天然繊維生地の晴雨兼用傘における 水漏れによる紫外線遮蔽率の比較	立命館大学生命科学部